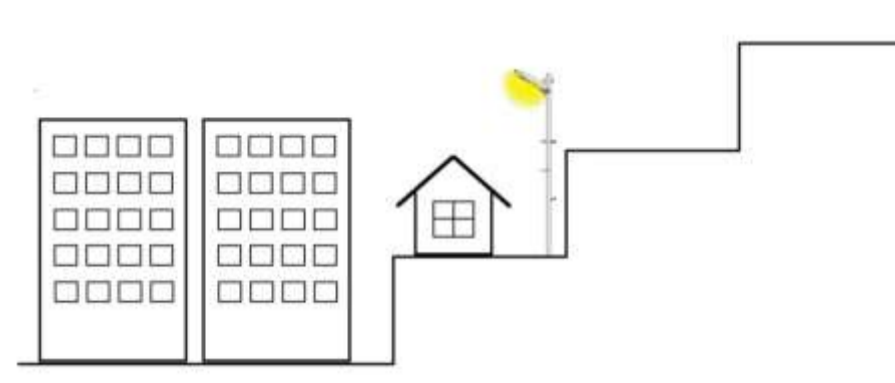
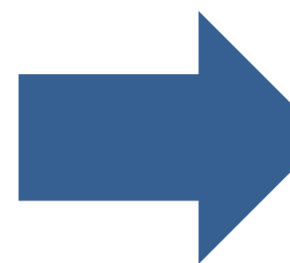
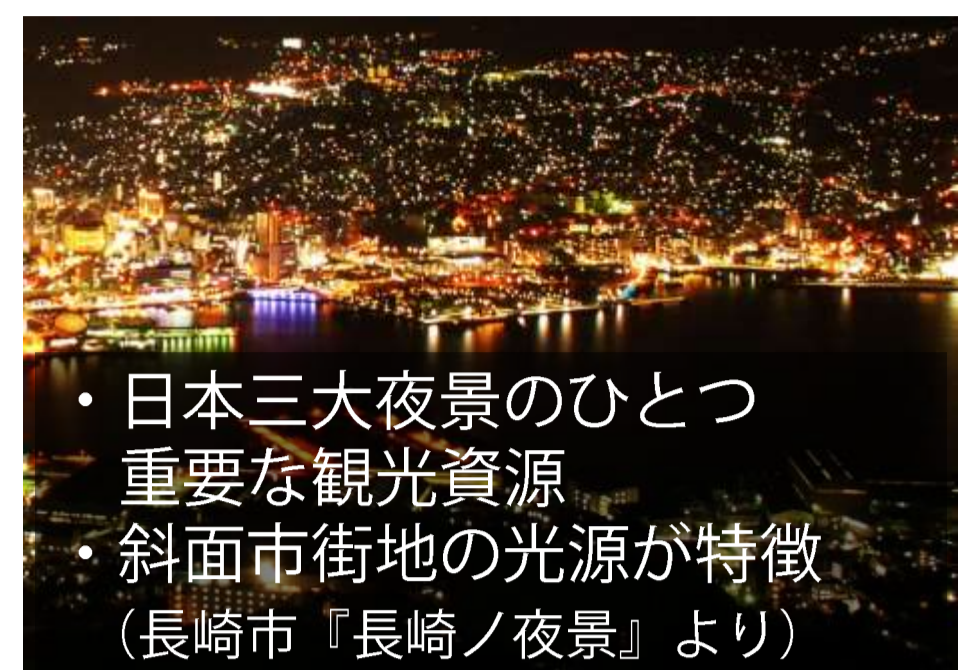
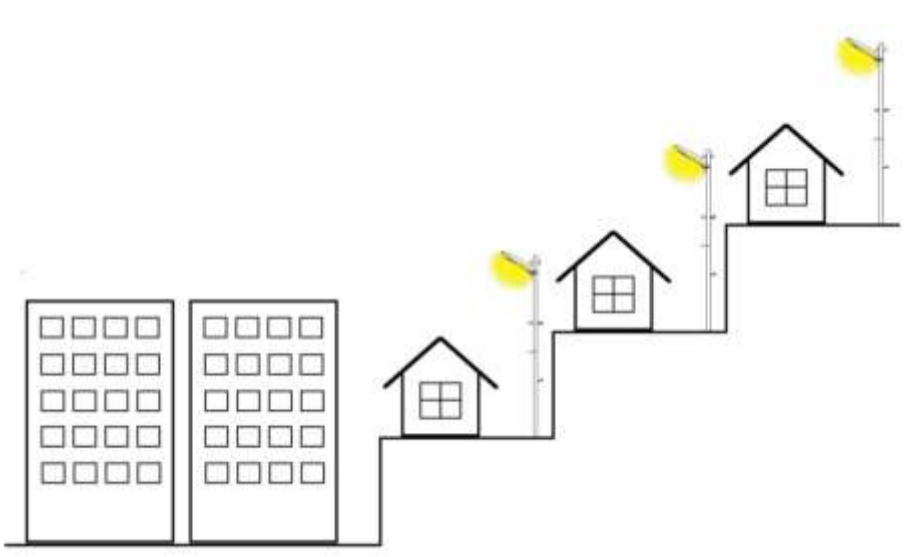


# 長崎市の斜面市街地の縮退が 稲佐山からの俯瞰夜景へもたらす影響

緑地創成学研究室 坂本真理 (緑地環境学専修)

## 1. 背景と目的



- 細街路や階段道が多い斜面市街地：移動や公共サービスへの支障・著しい人口減少
- 斜面市街地の人口減少 → 光源も減少？ → 俯瞰夜景を維持できない？

### 目的

斜面市街地の縮退による俯瞰夜景の変化を視覚化し、俯瞰夜景の維持にとって望ましい斜面市街地の縮退のありかたを考察。

### 俯瞰夜景に関する既往研究

- 景観画像の明暗・色彩の時刻変化を分析したもの (大影・宗本(1999))
- 景観画像の構図による心理的効果を評価したもの (天谷・山崎(2000))
- 地形・道路のデータをもとに俯瞰夜景を定量的に評価したもの (渋谷ら(2004))

→ 市街地の縮退による俯瞰夜景への影響を扱ったものはない

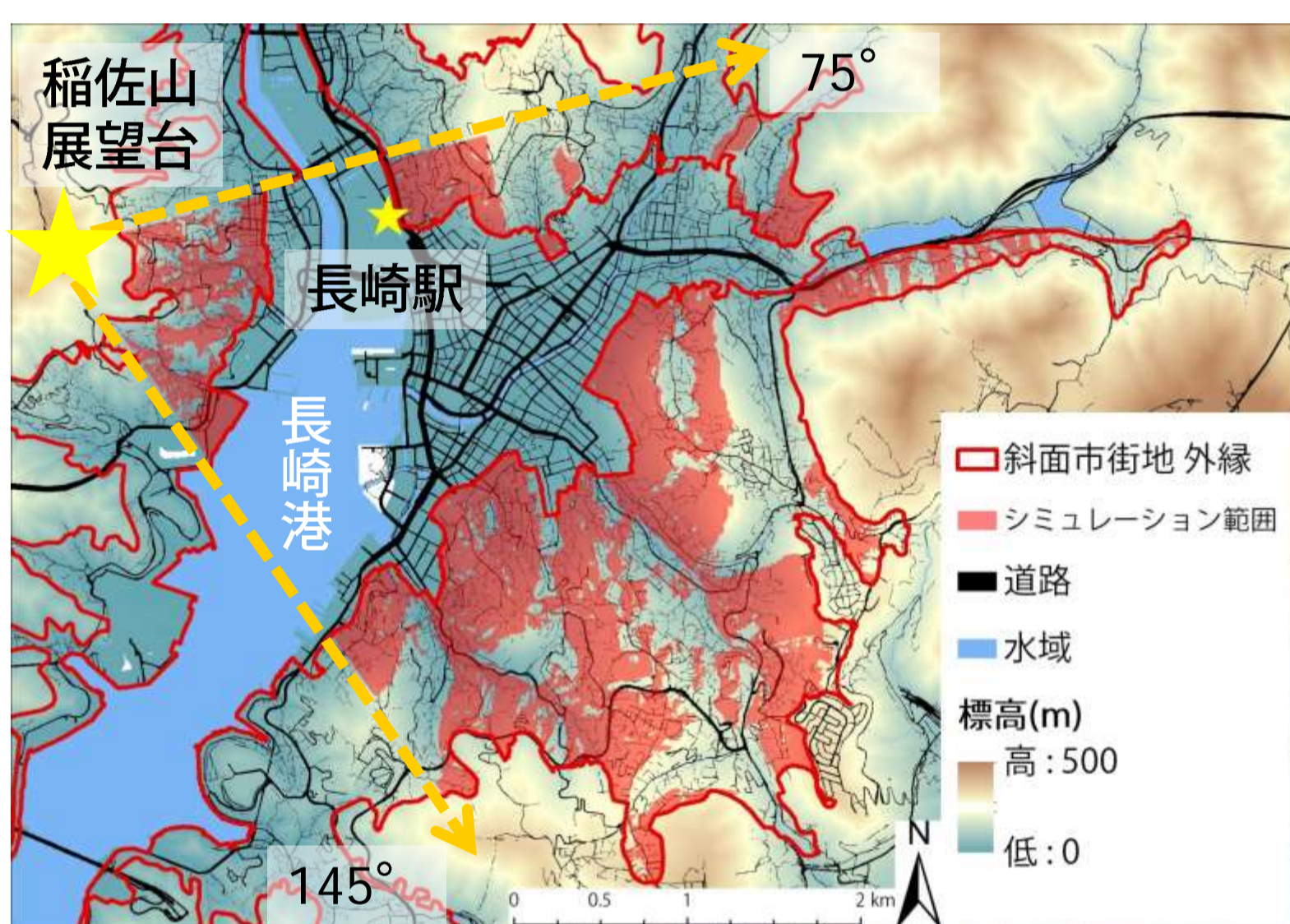
## 2. 手法

### 斜面市街地の定義

以下の条件全てを満たす区域：①既成市街地 (市の指定する330町丁目)、②市街化区域、③勾配5°以上もしくは標高20m以上

### シミュレーション範囲の設定

以下の条件全てを満たす区域：①斜面市街地、②稲佐山展望台東端を観測地点とした可視領域、③方位角75°~145° (右図の矢印の間)



### 光源：街路灯・道路照明灯



### 研究の流れ

- ① 現状の俯瞰夜景の視覚化
- ② 将来起こりうる斜面市街地の縮退パターンの考案
- ③ 各縮退パターンに当てはめた将来の俯瞰夜景の視覚化

## 3. 結果

光源の本数を40%減らす縮退パターンを3つ考案し、各パターンに当てはめた将来の俯瞰夜景を視覚化した。

| 斜面市街地の縮退パターン  | A. まちなか区域集約型                              | B. 若年地域集約型                                 | C. 公共交通集約型                      |
|---------------|---|--|---------------------------------|
| 内容            | 長崎市が指定する都市機能集積区域である「まちなか」の周囲800m以内に集約させる。 | 将来空洞化する可能性の低い高齢化率33% (第3四分位数)未達の町丁目に集約させる。 | 公共交通機関の停留所から半径170m以内の市街地に集約させる。 |
| 光源の減少 2D (本数) | -40%                                      | -40%                                       | -40%                            |
| 光源の減少 3D (面積) | -37%                                      | -42%                                       | -44%                            |
| 現状            | A   | B  | C                               |
|               |   |  |                                 |
|               |   |  |                                 |

## 4. 考察

俯瞰夜景の維持にとっては、公共交通集約的な斜面市街地の縮退を目指すことが望ましい。

- A. まちなか区域集約型
- 遠方・高所の光源の不足による奥行き感の欠如
  - 一極集中的なコンパクトシティ化を実施すべきではない

- B. 若年地域集約型
- 遠方の光源の不足による奥行き感の欠如
  - 住宅・道路の整備を積極的に行い、若年層を誘導すべき

- C. 公共交通集約型
- 遠方・高所ともに光源が分布
  - 分布面積の不足
  - 停留所からより広い範囲の市街地を保つべき